

二枚田遺跡(第2次)

久保地尾根遺跡(第7次)

平成13年度個人住宅建設に
先立つ緊急発掘調査報告書

2002. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が二枚田遺跡

序

このたび平成13年度に発掘調査を実施した二枚田・久保地尾根岡遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は、個人住宅の建設に先立って、国庫ならびに県費から発掘調査補助金交付をうけて実施したものであります。

二枚田遺跡は、2回目の調査になりますが、今回は眺望のすぐれた尾根上の発掘調査で、環境の好いところは、縄文時代も今も同じ、との思いにかられました。調査では、当時の生活を考えるうえで貴重な、住居跡と小堅穴を見発見することができました。

久保地尾根遺跡は、今回で7回目の調査になりますが、幸いにも遺跡の中心部から外れていたこともあり、破壊された範囲は最小限にとどめることができました。

村内には100を超える遺跡が知られておりますが、発掘調査に携わるたびに、失われる貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えて行く責任を強く感じるものであります。開発の流れの中でいかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところであります。

発掘調査にあたり県教育委員会のご指導、多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘調査報告書刊行に至る過程において、お世話をいただいた関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

原村教育委員会

教育長 津金 喜勝

例　　言

1. 本報告は、平成13年度に個人住宅建設に先立って実施した、長野県諏訪郡原村中新田に所在する二枚田遺跡の第2次緊急発掘調査、原村室内に所在する久保地尾根遺跡の第7次緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけた原村教育委員会が、二枚田遺跡は平成13年5月7日から6月4日、8月30日から10月26日、久保地尾根遺跡は10月1日から12日に実施し、整理作業は、平成14年1月4日から3月26日にかけて行った。
3. 現場での遺構の実測と記録は小林りえ・田中正治郎・平出一治が行い、測量の一部については株式会社写真測図研究所に委託した。写真撮影は田中と平出が行った。
4. 遺物・図面の整理は小林が行い、石器の実測は株式会社写真測図研究所に委託した。
5. 執筆は田中と平出が話し合いのもとに行った。
6. 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係資料は、二枚田遺跡は67、久保地尾根遺跡は57の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

序	
例　　言	目　　次
I 二枚田遺跡	3
II 久保地尾根遺跡	18
発掘調査団名簿	
報告書抄録	

I 二枚田遺跡

1 発掘調査に至る経過

平成12年度に個人住宅建設の計画が持ち上がり、協議を進めてきた。当然ながら遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、本遺跡はすでに平成10年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立ってかなりの面積が調査され開発が進んでいる。開発者は眺望のすぐれた二枚田遺跡に住宅建設を強く希望した。このため「記録保存やむなき」との結論に至り、緊急発掘調査を平成13年度に実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

その後も協議を重ね、原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付を受け、平成13年5月7日から6月4日にわたり発掘調査を実施した。その後、県道からの取付けに問題が生じ、計画変更に伴う発掘調査を8月30日から10月26日にわたり実施した。

2 発掘調査の経過（抄）

平成13年5月7日 発掘準備をはじめる。

15日 重機にて表土剥ぎをはじめる。縄文時代中期初頭の土器、打製石斧等が出土する。斜面部分で住居址の埋没を確認し、便宜上第1号住居址とする。

16日 重機による表土剥ぎを続けるとともに、遺構の検出作業をはじめる。小豎穴と思われる落ち込みを確認する。

18日 検出作業を続ける。

21日 第1号住居址の精査をはじめる。埋甕炉を確認する。

25日 小豎穴等の精査をはじめる。

30日 第1号住居址の埋甕炉の精査を行う。

6月4日 遺構の実測、片付けを行い調査を終了する。

8月30日 発掘調査に至る経過で述べた計画変更に伴う地点の表土剥ぎを重機ではじめる。

9月4日 遺構の検出作業をはじめ、第2号住居址の埋没を確認する。

5日 第2号住居址の精査をはじめる。

13日 小豎穴の精査をはじめる。

17日 ロームマウンドの調査を行う。

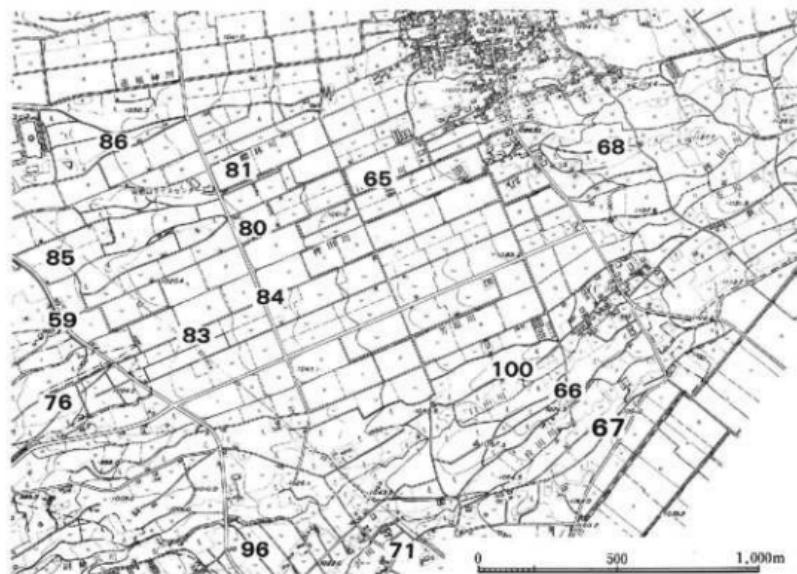
26日 住居址・小豎穴の精査を終了する。

10月26日 遺構の実測、片付けを行い調査を終了する。

表1 二枚田遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ◎は住居址発見

番号	遺 跡 名	旧石器	縄 文					弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世	備 考
			草	早	前	中	後							
59	御射山北				○					○				
65	梨の木沢		○	○	○	○				○				平成元年度発掘調査 消滅
66	追分沢				○	○				○				平成10年度発掘調査
67	二枚田			○				○						一部破壊 平成10、13年度発掘調査
68	芝原尾根	○		○	○	○				○	○			昭和57年一部破壊 平成7、8年度発掘調査
71	南原東				○					○				平成4年度立会い調査
76	御射山	○		○	○	○				○	○	○	○	昭和59、60、平成4年度発掘調査
80	御射山沢				○	○				○				昭和59年度発掘調査 消滅
81	堤之尾根		○	○	○	○				○				平成2年度発掘調査 消滅
83	花表原					○								昭和59年度発掘調査 消滅
84	中御射山西			○						○	○			昭和59年度発掘調査 消滅
85	箕手久保				○	○				○	○			昭和61年度発掘調査 消滅
86	判の木尾根					○				○				昭和62年度発掘調査
96	南原原			○	○	○				○				平成9、11年度発掘調査
100	南長尾				○					○				平成10年度発掘調査

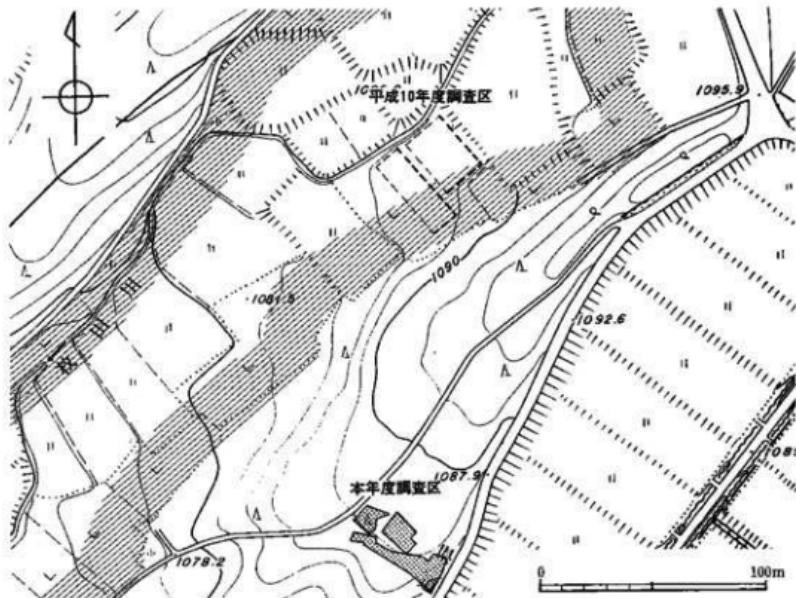


第1図 二枚田遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

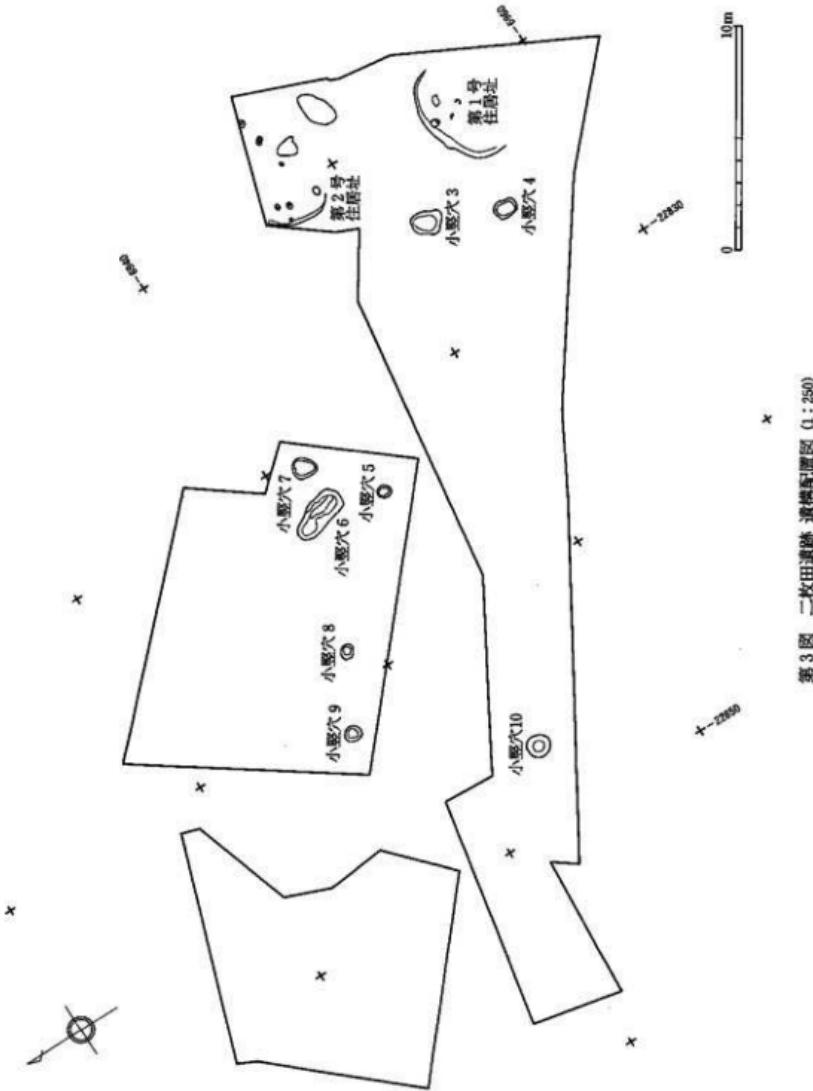
3 位置と環境

二枚田遺跡（原村遺跡番号67）は、長野県諏訪郡原村中新田区の南方約1kmに位置する。この付近は八ヶ岳西麓にあたり、東西に細長く伸びた大小の尾根が見られるが、この尾根上から斜面には縄文時代を中心とする多くの遺跡が展開している。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する二枚田川左岸に発達した尾根上から斜面に立地している。標高は1040m前後を測り、現況は山林と普通畠で、一部水田がみられる。本調査地点は遺跡の南端付近にあたり、山林であったが、すでに伐採は終了し抜根が行われた状態で、ロームが散乱し部分的には破壊も考えられる状態であった。

平成10年度に行った県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ発掘調査（第1次発掘調査）では、遺跡の3分の1程を記録保存しているが、遺跡の中心と思われる尾根上が外れていたこともあり、時代不詳の小堅穴2基を検出ただけであり、遺構密度はかなり低かった。しかし、原村としては非常に稀な弥生時代後期の土器破片が発見された。このため、複数の時期にわたる遺跡であることが判明しつつある。



第2図 二枚田遺跡 発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)



第3圖 二枚田遺跡 遺構配置図 (1:250)

4 調査方法と層序

発掘調査対象は第2、3図に示したように住宅敷地および関連施設の用地にかかる部分のみとし、他の部分は現状保存とした。

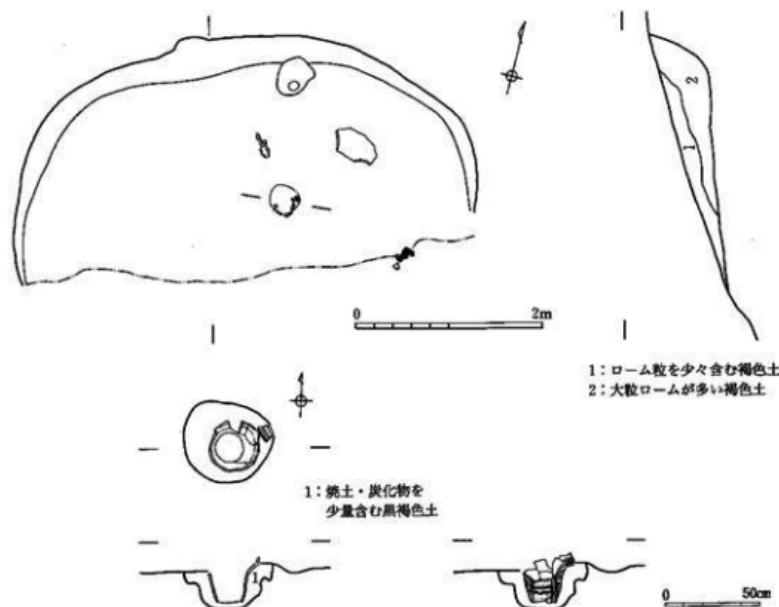
表土剥ぎは重機を用いて行い、現れたローム層上面ないしは黒色土からローム漸移層を遺構確認面として、人力で遺構の検出につとめた。遺構の実測等は座標値をもたせた測量基準杭を打設して行った。調査面積は590m²である。

観察された土層は尾根上の平坦面と斜面で大きく異なることはなく、平坦面では腐植の混じる表土から黒色土、ローム漸移層と一般的な在り方を示した。斜面部分では全体に土層が薄く、一部で黒色土が極端に厚くなる部分があったものの、基本的には平坦面と同様であった。

5 遺構と遺物

遺構

第1号住居址（第3、4図、写真1）



第4図 二枚田遺跡 第1号住居址実測図 (1:60、炉=1:30)

尾根南斜面のローム層上に褐色の半円形の落ち込みを検出し、先行トレンチを入れたところ明確な掘り込みが確認できたため住居址と判断した。

径4.5mほどの円形プランと想定されるが、斜面下側は流失したものか、斜面上側の半円状の部分しか残っていない。覆土下層にはローム粒を多く含む褐色土が斜めに堆積していることから自然埋没と考えられる。

床は全体的にやや硬く締まっており、容易に検出できたが、貼り床状にはなっていない。炉は小形の土器の上部を埋設して作られ、推定される住居中央より、やや奥壁側に寄っている。炉体土器を埋設するための掘り方と思われる部分には、焼土・炭化物がわずかに認められたが、炉内部・周辺部とともに焼土等はまったく見られなかった。

柱穴と思われるビットは壁際に1基検出されているが、他のビットは床を剥いでも確認できなかつた。

遺物は少なく、覆土内からは土器破片、床面付近からわずかな土器破片と磨石状の礫を得たにすぎない。床面からやや浮いて大きな平石が出土したが、特に加工した痕跡はなく、性格は不明である。

第2号住居址（第3、4図、写真2）

第1号住居址の北方のやや傾斜が緩やかになる尾根の肩部分で検出した。円形を呈する竪穴住



第5図 二枚田遺跡 第2号住居址実測図 (1:60)

居址と思われるが、北側は調査区域外となるうえに、東側はすでに自然流失していた。西壁の一部とその直下に床面が残存していただけであり、竪穴の規模を推測することはできない。

覆土は薄いうえに残存範囲も少なく、明確なことはわからなかったが、三角堆土の発達がみられたことから自然埋没と考えられる。

壁の立ち上がりは比較的なだらかで、床面は西壁直下に僅かに残存しただけであるが硬くしつかりしている。柱穴は明確にできないが、小ピットの中に含まれている可能性は高い。しかし、深さはあるものの小さいものばかりで特定することができない。炉址は流失部に構築されていたものと思われ、確認できなかった。

遺物は極めて少ないが土器片と石器がある。

小竪穴 3 (第6図)

斜面部分のローム面に黒色土の落ち込みを確認した。このため検出は非常に容易であったが、このような埋土を持つ小竪穴は今回の調査では本遺構のみである。掘り込みは40cmほどあるが、樹木の根によって破壊されたうえ、底部を掘り過ぎているため実際にはこれよりやや浅いと思われる。また上面形態も一般的なものではないが、これも根の影響と思われる。

覆土から大小2個の石鐵が出土している。形態・欠損部位ともによく似ており、遺構の性格を示唆しているようである。

小竪穴 4 (第6図)

小竪穴3の南側に暗褐色の落ち込みを検出した。平面形はやや特異であるが、掘り過ぎによる可能性が高い。埋土内から平たい礫が出土したほかに遺物は見られなかった。

小竪穴 5 (第6図)

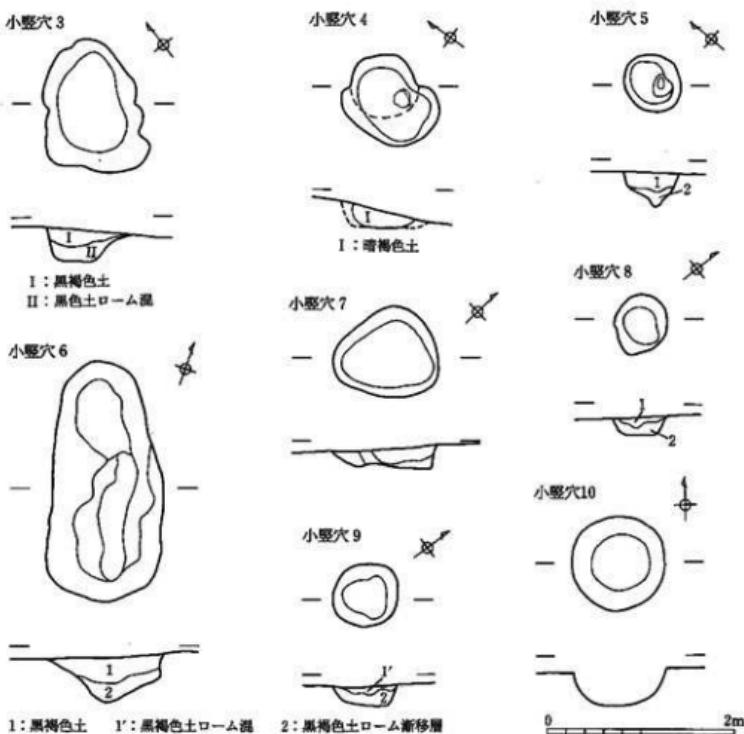
尾根上の平坦部でしみ状の黒褐色部分を検出したが、断面観察では掘り込みを明確にすることはできなかった。遺物の発見は皆無で、遺構とは言いがたい。

小竪穴 6 (第6図)

尾根上の平坦部、小竪穴5の東方で明確な落ち込みを確認した。当初その形態から陥れ穴を予想したが、壁の立ち上がりは明確でなく、地形の窪みとも思われたが、壁の一部がしっかりとしているため遺構とした。しかし、土層は漸移的で遺構と断定するにはやや弱い。遺物は出土していない。

小竪穴 7 (第6図)

尾根上の平坦部、小竪穴6の南方で落ち込みを確認した。一部で土層の差が明確ではなく、そ



第6図 二枚田遺跡 小豈穴実測図 (1:60)

のプランはやや不鮮明であった。遺物は出土していない。

小豈穴 8 (第6図)

尾根上の平坦部、小豈穴 5 の西方で小さなしみ状の部分を検出し、半分割したところ小規模な落ち込みを確認した。断面図では20cmほどの掘り込みとなっているが、底部は明確ではないため、これより浅い可能性が高い。遺物は出土していない。

小豈穴 9 (第6図)

尾根上の平坦部、小豈穴 6、7 の南方で、小豈穴 8 と同様にごく小規模な落ち込みを確認した。本遺構も底部は明確でなく、単なる土地のくぼみの可能性を否定できない。遺物は出土していない。

小豎穴 10 (第6図)

尾根上の平坦部、小豎穴 5、8 の南方で、比較的しっかりした柱穴状である。遺物は出土していない。

遺 物

土 器 (第7~9図)

今回の調査で得られた土器は、すべて縄文時代中期初頭である。他の時期の遺物は発見されていない。ここでは簡単な説明にとどめる。なお第7図1を除きすべて遺構外出土である。

第7図1は1号住居址出土で、口縁が大きな波状をなし胸部上半が屈曲する。5は円筒形の器形と思われ口縁付近に縄文が施されている。第8、9図は遺構外出土で、9~18は胸部の破片であり、細線文系と縄文系の双方が見られる。19~21は口縁内面に半縫竹管による文様をもつ浅鉢でこの時期特有のものである。

該期の土器は、村内では大石遺跡からまとまって出土し報告されているが、遺跡の標高はかなり低く、本遺跡のような高標高地点から同時期の遺構・遺物が発見されたことは興味深い。他の遺跡ではわずかに散見されるのみである。

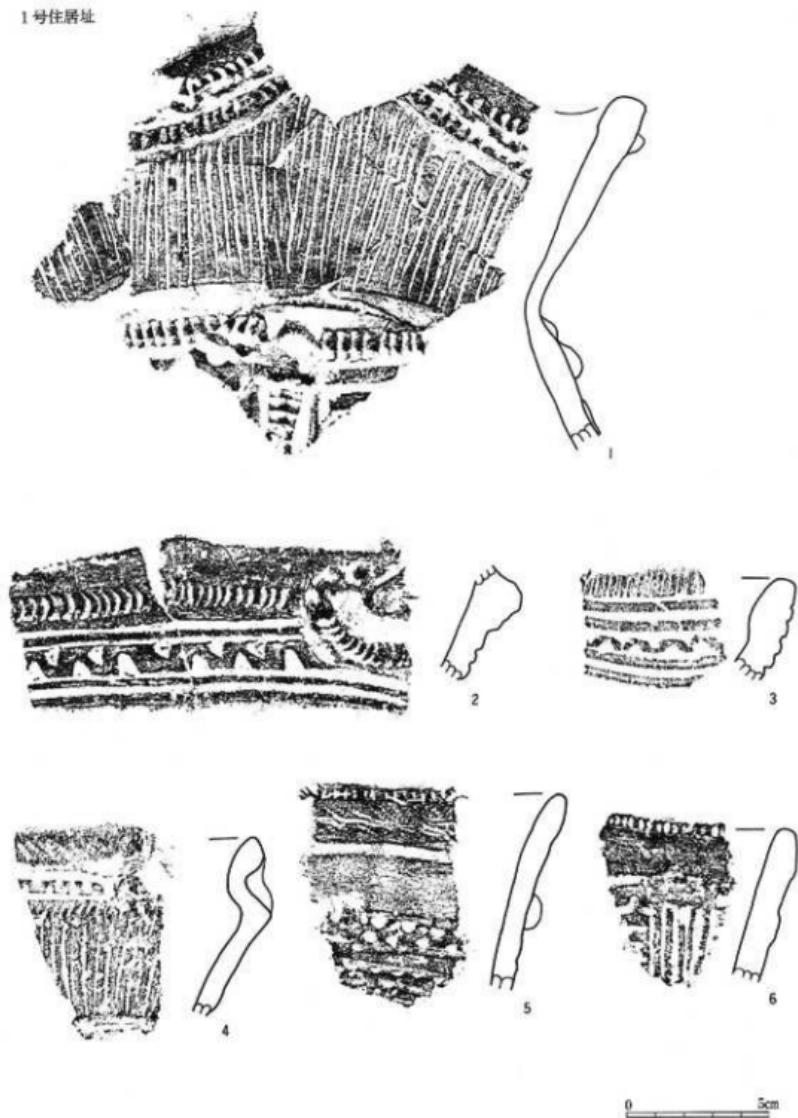
石 器 (第9、10図)

今回得られた石器類は多くなく、器種も一般的で本遺跡を特徴づけるようなものはみられない。第10図1~6は黒曜石製の石器で、6を除き普通の大きさである。1~3は1号住居址、4は2号住居址、5と6は小豎穴3出土である。7~9は使用痕のある石器および不定形石器でやはり黒曜石製で、7は2号住居址、8は小豎穴3出土である。10~13は打製石斧で、10は千枚岩、11はフォルンフェルス、12は結晶片岩、13は砂岩製である。14と15は横刃形石器で、14は緑色岩で打点が2個所見られる。15は結晶片岩製である。第9図22~24は凹石で、輝石安山岩製で両面に凹みを持ち、23は磨り面がみられるがその方向ははっきりしない。

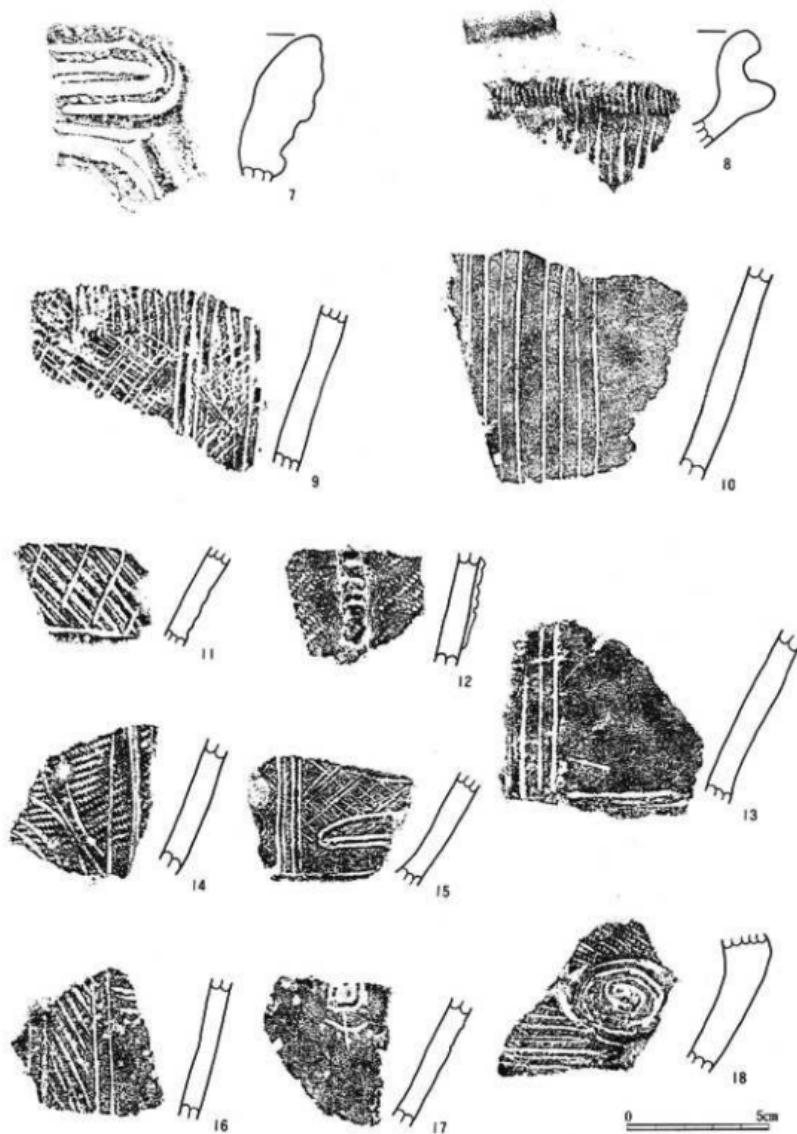
6 ま と め

本調査は、住宅敷地にあたる狭い部分であったが、縄文時代中期初頭の住居址をはじめ、比較的まとまった遺構・遺物を発見することができた。尾根上の平坦部と斜面では遺構の在り方、遺物の出土状況に大きな差があり、いまだ不明確な中期初頭を考えうえで、重要な資料を提示できたのではないかと思っている。

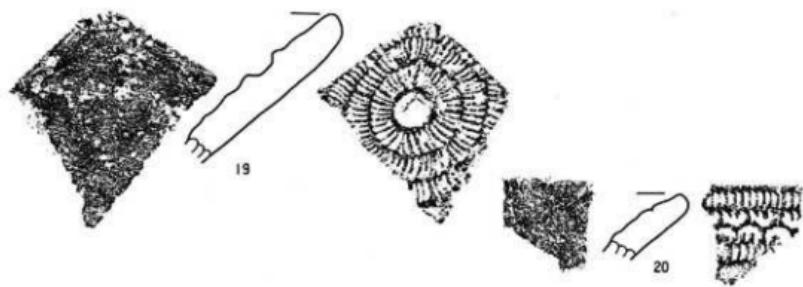
1号住居址



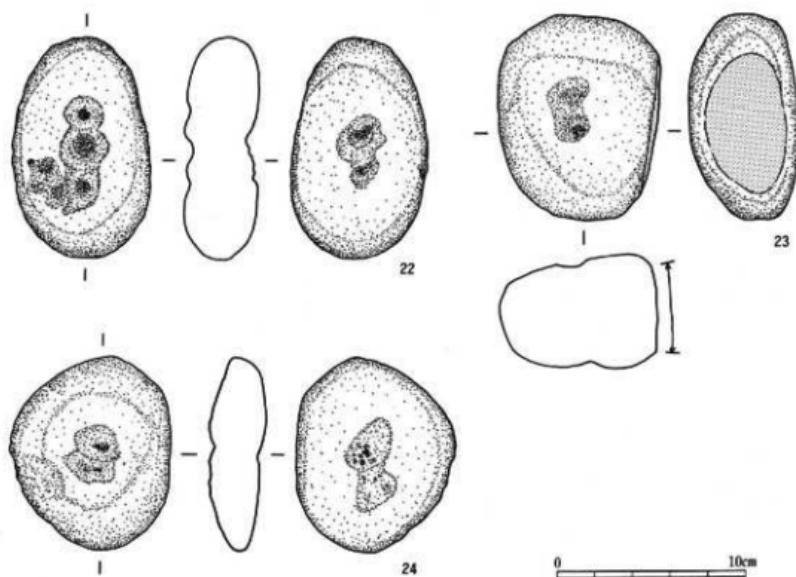
第7図 二枚田遺跡 第1号住居址・遺構外出土土器拓影 (1:2)



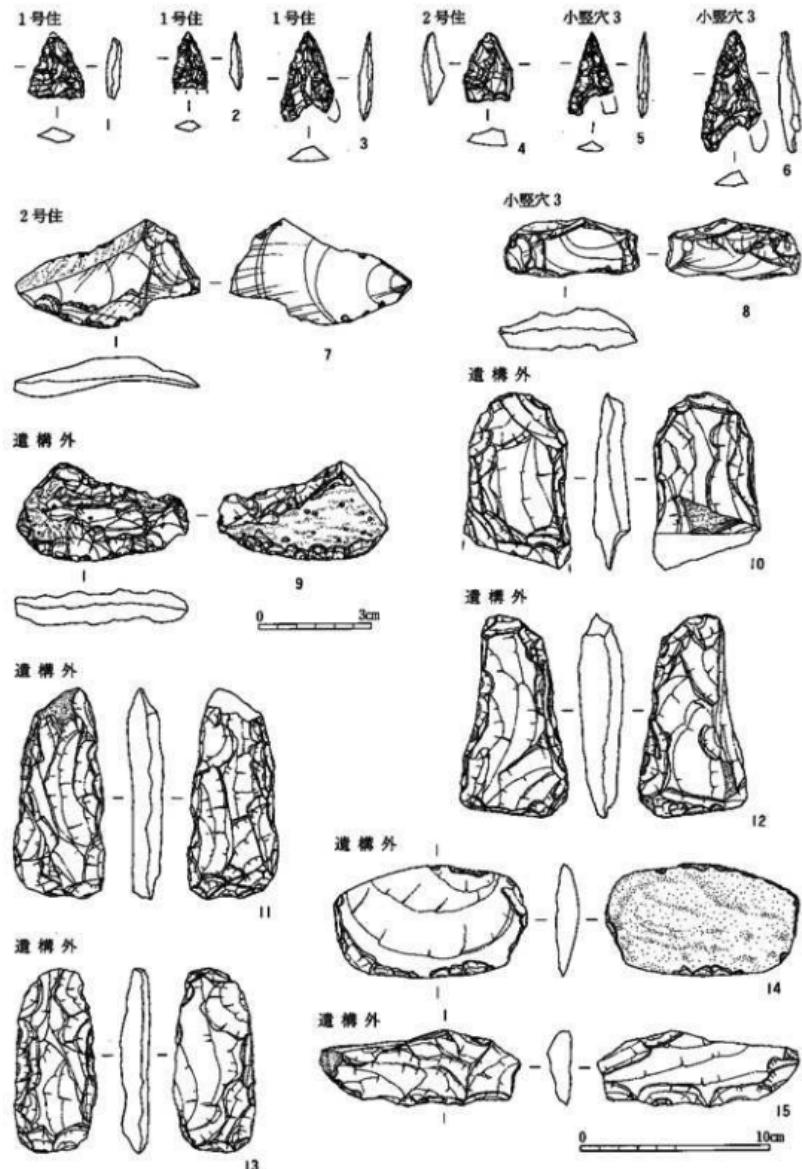
第8図 二枚田遺跡 遺構外出土土器拓影 (1:2)



0 5cm



第9図 二枚田遺跡 遺構外出土土器拓影・石器実測図 (19~21=1:2、22~24=1:3)



第10図 1・2号住居址・小豊穴3・遺構外出土石器実測図 (1~9=1:1.5, 10~15=1:3)

二枚田遺跡

写真1 二枚田遺跡遠景(南から)



写真2 丘陵平坦面調査区

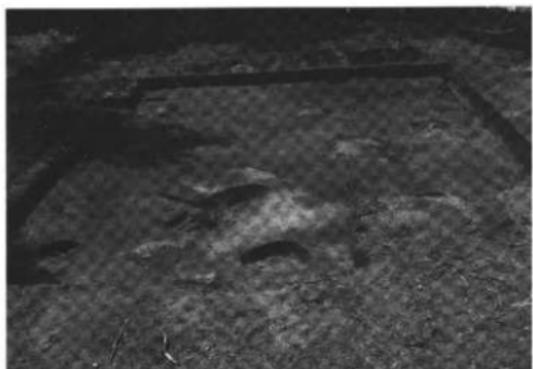


写真3 1号住居址(南から)



二枚田遺跡

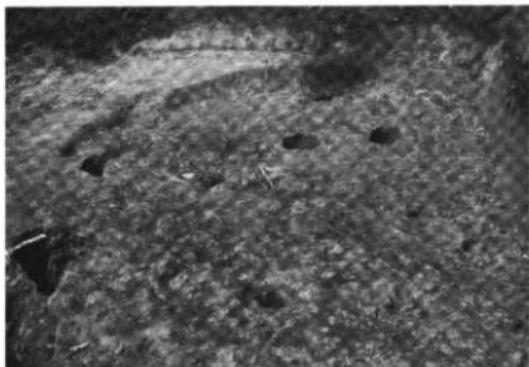


写真4 2号住居址

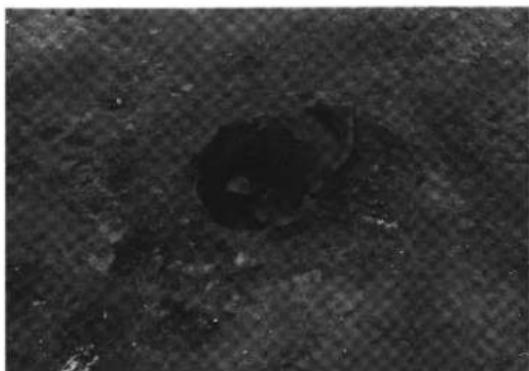


写真5 1号住居址 埋甕炉



写真6 1号住居址 炉体土器

II 久保地尾根遺跡

1 発掘調査に至る経過

平成13年度に個人住宅建設の計画が持ち上がり協議を進めてきた。当然ながら遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、住宅を建設する希望は強いうえに、すでに本遺跡は諸開発に先立つ緊急発掘調査を5回にわたって実施している経過もあり、「記録保存やむなき」との結論に至り、平成13年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

その後も協議を重ね、原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけ平成13年10月1日から12日にわたり発掘調査を実施した。

2 発掘調査の経過（抄）

平成13年10月1日 発掘準備をはじめる。

- 4日 グリッド設定を行い、人力でグリッド発掘をはじめる、樹木の根により思うように作業は進まない。
- 12日 グリッド発掘を続けてきたが遺物の発見はなく、遺構を検出できなかつたため、片付けを行ない調査を終了する。

3 位置と環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）は、長野県諏訪郡原村室内区に位置する。役場の南方1km程と好条件にめぐまれていることもあり、急速に宅地化が進んでいる。

この付近は八ヶ岳の西麓にあたり、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられるが、それらの尾根上から斜面には縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する菖蒲沢川と阿久川という2本の小河川によって形成された尾根上から斜面に立地している。調査地点は村道に接する尾根の北斜面に位置し、山林であったがすでに伐採は終了していた。標高は980m前後を測る。

本遺跡における発掘調査は、昭和25年の調査を便宜上第1次調査と呼び、その後は住宅建設、県営圃場整備事業原村西部地区、県営狙い手育成基盤整備事業深山地区、村道改良事業などの諸開発に先立って実施し、縄文時代中期後半期の集落跡であることが判明しつつある。

4 調査方法と層序

発掘調査は、傾斜地のため開発では平坦化することであったため、第11、12図に示したように住宅の敷地全域を対象とした。

たまたま平成7年度に村道改良事業に先立って実施した第3次発掘調査の地点に接していたこともあり、第3次発掘調査同様にグリッドを設定し、人力でグリッド発掘を行った。しかし、遺物・遺構を発見するまでには至らなかった。調査面積は45m²である。

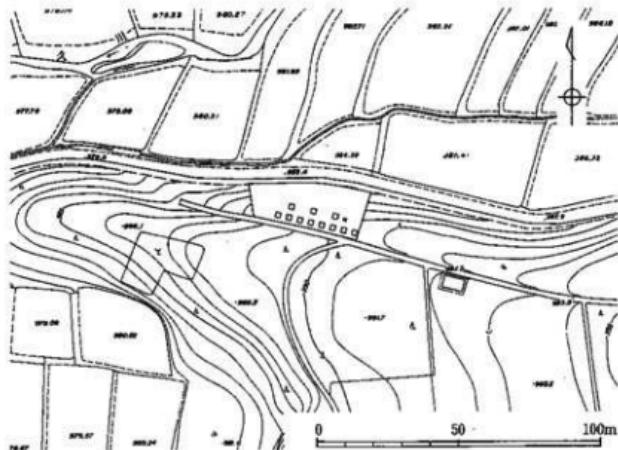
土層は、腐植の混じる表土から黒色土、ローム漸移層と一般的な在り方を示したが、傾斜の強い個所では表土の直下がローム層となる。

5 まとめ

遺跡の外縁部にあたる北斜面の調査で、その傾斜は比較的強く表土下が直接ローム層となる個所もみられ、遺物および遺構を発見するまでには至らなかった。しかしながら绳文時代中期の集落遺跡の外縁部のあり方の一端を窺うことができたといえよう。前述のとおり宅地化が進行しており、今後も開発は予想される。注意深く見守って行く必要があろう。



第11図 久保地尾根遺跡 発掘調査区域図・地形図 (1:5,000)



第12図 久保地尾根遺跡 グリッド配置図 (1:2,000)

調査組織

平成13年度 二枚田・久保地尾根遺跡調査団名簿

事務局 原村教育委員会

教育長 大館 宏 (～平成13年7月22日)

津金 喜勝 (平成13年7月23日～)

学校教育課長 小林 銀晃

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団長 大館 宏 (原村教育委員会教育長 ～平成13年7月22日)

津金 喜勝 (原村教育委員会教育長 平成13年7月23日～)

調査担当者 田中正治郎 平出 一治

調査員 平林とし美

調査参加者 発掘作業 小池 英男 小島久美子 小島 政雄

小林 りえ 小松 弘 五味計佐雄

高橋 儀男 田中 初一 西沢 寛人

藤原 正春 宮坂今朝寿 渡部 静香

整理作業 小林 智子 小林 りえ 坂本ちづる

渡部 静香

報告書抄録

ふりがな	にまいだいせき、くぼちおねいせき							
書名	二枚田遺跡(第2次)、久保地尾根遺跡(第7次)							
副書名	平成13年度個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	60							
編著者名	田中正治郎 平出一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2002年03月							
所取遺跡	所在地	コード		北緯 度分秒	東經 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
市町村	遺跡番号	3637	67	35度 14分 50秒	138度 56分 24秒	20010507 20011026	590	平成13年度 個人住宅建設
二枚田	長野県諏訪郡 原村中新田							
久保地尾根	長野県諏訪郡 原村室内	3637	57	35度 12分 51秒	138度 57分 34秒	20011001 20011012	45	平成13年度 個人住宅建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
二枚田	集落跡	縄文時代	中期 竪穴住居址 2軒 小竪穴 8基		縄文時代 中期土器破片、 石器	標高1088mで縄文時代中期初頭の集落跡が発見されたことは、当地方における一般的な集落跡より高所に位置し興味深い。		
久保地尾根								

原村の埋蔵文化財60

二枚田遺跡（第2次）
久保地尾根遺跡（第7次）

平成13年度個人住宅建設に
先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成14年3月

発 行 原村教育委員会
〒391-0192 長野県諏訪郡原村
TEL 0266-79-7930

印 刷 もえぎ企画書籍
〒394-0043 岡谷市御倉町2-21
TEL 0266-22-4892

